ために数枚の写真を添付し、報告としたい。

標本は、止水域の沈水タイプの材料を採集してから、証拠品として神戸大学の標本庫に納める予定である。

第15回全国集会・大津の報告

1993年7月24日・25日に、第15回全国集会・大津が滋賀県琵琶湖研究所を会場として開催された。数名の欠席はあったものの、当日に新たに受け付けをされた方もあり、参加者総数は87名にものぼった。

青木繁（滋賀県立ふるさといきものふれあいの里センター）、芦谷美奈子・草加伸吾（滋賀県立仮称琵琶湖博物館開設準備室）、栗林実（㈱ 生態システム研究所）、山口龍三（滋賀県教育委員会・びわ湖フローティングスクール）、浜端悦治（滋賀県琵琶湖研究所）が準備を担当した。7月14日には船を、翌15日には車を用いてエクスカーションの予定地を移動し、コースの最終決定をおこなった。長梅雨の雨にもめげず、良い観察地点を探そうと、水辺に近づきすぎ胸までどっぷり川にはまられた方を出すほど、入念？な下見をおこなったにもかかわらず、時期はずれの台風（4号）の襲来で、予定のコースの変更を余儀なくさせられた。

24日午後1時から、途中休憩をはさみながら、次のような興味深い研究発表がおこなわれた。

1. 小林節子（千葉県水質保全研究所）：印旛沼、手賀沼の水生植物の近況
2. 生嶋功*（千葉大・理）・前河孝志・森田尚（滋賀県水産試験場）：ヨシ群落内外の水質特性
3. 宮本明宣（千葉県立長生高・生物）：九十九里平野の池沼群における水草の分布と水質
4. 国井秀伸*（島根大・汽水センター）・Senny Sunanisari（インドネシア科学院陸水研究開発センター）：オオオニバスの葉の成長
5. 井出口佳子*・下田路子（東和科学株式会社）：山口県下関市のため池の水草
6. 中村俊之*・角野康郎（神戸大・理・生物）：兵庫県加古川水系におけるクロモの遺伝的多様性
7. 立花吉茂（花園大学）：ウルグワイの水草について
8. 栗林実（㈱ 生態システム研究所）：琵琶湖沿岸における低湿地性稀少植物の分布状況
9. 芦谷美奈子*（仮称琵琶湖博物館開設準備室）・滋賀ため池研究会：滋賀県八日市市のため池の水草の現況
10. 青木繁（滋賀県立朽木いきものふれあいの里センター）：滋賀県北部の湿地植物
11. 浜端悦治（琵琶湖研究所）：中国雲南省洱海の水草と琵琶湖

なお当初発表が予定されていた桜井善雄先生は急用で欠席され、桜井善雄・越中直樹・上野直也：「霞ヶ浦におけるヨシ群落の株化・崩壊とその原因（予報）」と題した資料配布のみがおこなわれた。

続いて開催された総会では、事業報告などがおこなわれたのち、賛助会員制度や全国集会の次年度開催地などが討議された。

午後6時30分からは研究所そばのさざなみ荘で、65名の参加者を得て懇親会が催された。宴会に先立ち、琵琶湖研究所の吉良竜夫所長が挨拶をされた。宴席の料理には、水草研究会を意識してのことではないと思われるが、ジュンサイなどもそえられており、なかなか好評であったようだ。また大滝先生からは煙草の引き出物があったり、新潟の方達からは、越寒梅などの銘酒の寄贈があり、大いに盛り上がった。

翌日の見学会は当初2隊に分け、一隊は滋賀県のセミナー船を用いて湖上を、一隊は陸上をバスでそれぞれ長浜に向かい、昼食後バスと船とを交代して大津に戻る計画であった。台風一過の7月25日の早朝は風も弱く穏やかな天気かと思われたが、台風が日本海に出た後に突風が吹く可能性が高いというセミナー船の船長の判断により、船の利用は中止となった。見学会の参加者は68名にものぼり、予定していたバス1台には乗りきれず、急きょ集めた3台の車を加え、大津から、八日市、長浜市、湖北町、余呉町へと北上した。

まず初めに、名神高速道路を利用し八日市市に向かい、3つのため池（新溜（布施溜のとなり）：八日市市布施

町、馬溜・宮溜：同市芝原南町）を村長昭義（彦根市立北脇小学校教諭）、青木繁、芦谷美奈子さん達の案内で見学した。このころになると陸上部でもかなりの強風となり、船長の判断の確かさが実証された形となった。その後また名神を用いて長浜市に移動し豊公荘で昼食をとった。

午後は長浜から琵琶湖岸を北上し、湖北町延勝寺付近で湖岸の低湿地帯の貴重植物やヨシ群落の植栽現場などを、栗林実さんの案内で見学した。ここでは小型の船を数隻借り、少し沖合いに出て沈水植物などをサンプリングする計画であったが、やはり風のためにできず、漁港の防波堤などから若干の水草を採取したにとどまった。その後さらに湖岸を北上し、湖北町尾上から高月町片山の湖岸に向かった。ここでは下見の際に見られたコカナダモの大量の流れ藻がやはり強風のために押し流されてしまっており、バスの中からの見学にとどめた。

次にさらに北上し、余呉町下余呉の余呉川でバイカモの自生状況を見学した。バイカモはそばの余呉湖にもかつては自生していたといわれるが、今ではこの余呉川に若干見られるにすぎないし、この河川は滋賀県でも残り少ない自生地の一つとなっている。解散時刻が迫っておりここが最後の見学地となった。その後、木之本から北陸自動車道を利用して米原に向かい、午後4時にＪＲ米原駅で一度目の解散を、さらに彦根から名神高速道路に入り、午後5時にＪＲ大津駅で二度目の解散をおこなった。台風のために、湖上クルージングが中止となるなど、大幅な計画変更を余儀なくされたが、強い風が吹いてはいたものの晴天に恵まれ、事故もなく無事予定どおり解散することができた。

観察植物リスト

新　　溜：八日市市布施町
ガガブタ、ミズニラ、ホソバミズヒキモ、ウキシバ、ミズユキノシタ、チゴザサ、ヒルムシロ、イヌタヌキモ、ジュンサイ、ガマ、ヒシ

宮　　溜：八日市市芝原南町
ヒメビシ、ヒシ、フトイ、コカナダモ

馬　　溜：八日市市芝原南町
イヌタヌキモ、ヒメコウホネ、ヒシ

琵琶湖岸：湖北町延勝寺付近
オオマルバノホロシ、タコノアシ、オオカナダモ、コカナダモ、センニンモ、ネジレモ、ササバモ

余 呉 川：余呉町下余呉
バイカモ、ヤナギモ

（文責：浜端悦治）

＊総会報告は次号に掲載します。

水草研究会第15回全国集会（大津）　1993年7月24日・25日